修学旅行新聞

発行所 財団法人
全国修学旅行研究協会
発行人 前田 寛
〒101 東京都千代田区
神田錦町1-17-1（NK第一ビル）☎03（5259）0631
振替（東京）6－36337

★ われらの信条
われわれは教育を熱愛し 友愛と信義を基盤とする同志的組織のもとに団結する
★ われわれは全修協創設の精神にのっとり 公益法人として 児童生徒の幸福のために挺身する
★ われわれは修学旅行の改善向上に邁進し 我が国の教育振興に寄与する

—自主活動を中心に—

修学旅行研究大会を 各地で開催

近畿、東海、関東の順に 修学旅行委と全修協が共催

各地区の中学校修学旅行委員会及び財団法人全国修学旅行研究協会の共催による修学旅行研究大会が、十一月十九日に和歌山、十一月二十六日に名古屋、十二月三日に水戸で開催され、いずれも盛会のうちに終了した。今回はその前半について報告する。

近畿地区大会は 11月19日 和歌山で

第八回近畿地区中学校修学旅行研究大会が、十一月十九日和歌山市の公立学校共済組合・紀の国会館で開催され、近畿二府四県から二百四十三名が参加した。

大会は、近畿地区公立中学校修学旅行委員会（山本陽造会長・和歌山市立紀之川中学校長）及び財団法人全国修学旅行研究協会（山本種一理事長）が共催、近畿二府四県教育委員会並びに当地の和歌山市教育委員会後援、大会テーマ「視野を広げ、自ら学ぶ意欲を高め、心豊かな人間性を育成する修学旅行」の下に開催、奈良県・和歌山県二校の実践研究発表の後、和歌山県教育委員会の指導助言が行われた。

（大会の模様、発表要旨は3面に掲載）

羽田新空港ビルオープン初日
修学旅行生を乗せて大空へ
（9月27日朝、駒場東邦高 2面に関連記事）

——主張——
様変わりする修学旅行

広報委員 中島和友

今年もあとわずかを残し、間もなく新年を迎える。修学旅行の形態も年々様変わりが進み、班別自主活動、体験学習が主流となってきたが、実施時期、目的地に関しては、まだ十年一日といわざるを得ない面もみられる。安全を第一に考えるならば、ある程度はやむを得ないのだが、テーマ、目的など、更に新しいものを求めてもよいのではなかろうか。

先日、NHKのラジオで「修学旅行真っ盛り・裏方主役・若手先生大いに語る」という番組が放送された。公私立高六校の先生に生徒代表等をスタジオに迎え、更に一般聴取者もファクシミリ等で参加しての一時間十五分であったが、各校の特長ある内容とそれに対する意見、聴取者の修学旅行の思い出、修学旅行を中止している私立高校生の旅行復活運動などが放送され、変容した修学旅行と、今後に残される問題点等、考えるべきことも多かった。

海外型の埼玉の私立高は、韓国旅行を六年続けた後、目的地をオーストラリアに変えて二年、事前学習では五つのテーマから選択し、日本と比較して視野を広げる学習効果をねらう。

同じ埼玉の県立高は平和教育型。平和学習ノートを作成し、長崎市内の被爆地を見学する。

環境教育型の神奈川の私立高は、日田で植林、阿蘇で農作業、若狭原発や四国のゴミリサイクル見学と、各地で体験学習を展開する。

都市別変化型の東京都立高は、五年前から毎年行先を変え、高山・金沢、蔵王、広島・京都、沖縄、北海道と、各年度ごとにそれぞれ効果を上げる。

自然の中の自己発見型は長崎の小規模私立高。五島列島の無人島に滞在し、時間制約なしの自由行動は、食料と安全面の配慮が重要とのことである。

最後に、生徒計画型の東京の私立高は、学年全体行動のデメリットを考え、三年前から生徒の自主計画により学年を三～四の団に分けて旅行を実施。

スタジオの参加者・京都の私立高校生からは、中止されている修学旅行の復活運動への取組みが発表され、聴取者の思い出では、終戦直後の鎌倉で、占領軍の命により神社の団体参拝が禁止されていたため、鶴岡八幡宮をグループで見学したことも披露されて、班別自主活動のルーツを発見した。

テレビ番組でないので、聴取率は余り期待できないが、修学旅行の実態を知らせる効果はあったと思う。しかし途中で、生徒が寝た後に引率教員がさも脱線行動をするようなナレーションは事実と思えず、残念であった。

脱線といえば、班別自主活動中の高校生の実態をあちこちで耳にする。ある大学の調査によると、地方の高校生が大都会を訪れた際、男子は音響製品やCD、女子は衣料品などを買い込み、自宅へ託送、支払いはカードを使用し、何十万円も使う者がいるという。また、ギャンブルや飲酒、喫煙を体験したり、原宿や鎌倉では班別からカップルになって木陰に消える話も聞いている。自主活動には十分な事前学習・指導と当日の監督・案内、更に事後のチェックが不可欠である。

また、班別活動を円滑に行うための荷物別送、タクシー利用にも、周辺からは色々な問題点が挙げられている。体験学習も短時間で事が足りるとは限らない。団体行動を避け、何でも経験させようとすることには、限界があると考える。

名古屋の第10回全国修学旅行研究大会

第10回全国修学旅行研究大会は 11月26日 名古屋で

第十回全国修学旅行研究大会は、十一月二十六日名古屋市教育センターで開催され、東海三県始め全国から三百四十名が参加した。

大会は東海三県中学校修学旅行委員会（安藤和夫委員長・愛知県豊田市立豊南中学校長）と(財)全国修学旅行研究協会が共催、文部省、都道府県教育長協議会並びに愛知・岐阜・三重各県と名古屋市各教育委員会後援、関東・東海・近畿三地区公立中学校修学旅行連合委員会（安藤和夫会長）協賛により、「自主的活動と体験を重視した修学旅行」をテーマに開催された。

十三時三十分、森川昌樹委員（一宮市立今伊勢中学校長）の司会で、水野清孝委員（名古屋市立新郊中学校長）が開会を宣し、主催者の安藤委員長、山本理事長があいさつ、来賓として加藤正彦愛知県教育委員会義務教育課指導主事、加藤友昭名古屋市教育委員会指導室首席指導主事が祝辞を述べた。

研究発表は次の二校。

①愛知県一宮市立南部中学校 長谷川濃里教諭
「自主的に活動できる生徒をめざして」

②岐阜県関市立緑ヶ丘中学校 松田 孝之校長
「買物ツアーからの脱却を」

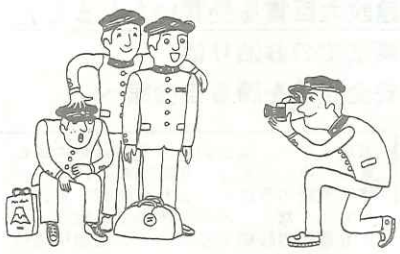
続いて研究協議、指導講評の後、渡部邦雄文部省初等中等教育局教科調査官の「修学旅行と体験学習」と題する講演があり、最後に安田定雄運営委員（三重県名張市立桔梗が丘中学校長）が閉会のあいさつを行って大会を終了した。

（発表・講演要旨と水戸大会は次号以下に掲載予定）

風紋

年末が近くなると、今年の不順な天候も、ようやく例年のペースに戻った。日本列島の太平洋側は好天が続くが、日本海側は雪空の連続である▼東京中心のテレビでは、これから連日のように雪をいただいた富士山の姿が放映されるが、日本海側では信じられないことである。ヨーロッパの冬も陰気だが、緯度が違う。標高の高い所はともかく、北緯四十度以下の海沿いで日本のように積雪の多い国は少ない▼学校行事の関係もあるが、十二月は修学旅行の端境期といえよう。秋のシーズンが終わり、スキーにはまだ早い。受入施設の改修の時期にも当たり、日が短いこともあるが、交通機関や宿舎、見学地とも非常にすいており、寒さも本番前ということで、特に天候の良い太平洋側を訪れる旅行には、もっと見直されて良い時期である▼昼間の時間が最も短いのは冬至であり、日の出の時刻はまだまだ遅くなるが、日没の時刻はもう早まって来ている。昼間が短いといっても北欧の比ではないし、行動は多少限られるが、その分病人の発生は減少するはずである▼修学旅行実施時期の平準化が叫ばれているが、スキー以外でも、もっと冬の旅を検討する余地はないのだろうか。春から秋のシーズンに東海道を旅して、連日好天に恵まれ、富士の姿を心ゆくまで眺めたという学校は、かなりの好運といえる。旅行の成否を左右するのは、日ごろの心掛けと良い天候である。（中）

信頼される旅づくり
心にあざやかな想い出を
ツーリストの修学旅行。
近畿日本ツーリスト
運輸大臣登録一般旅行業第20号 （社）日本旅行業協会会員

楽しい修学旅行を、
より安心
より快適に

TOKIO MARINE
「学校旅行総合保険」
をおすすめします。
東京海上火災保険株式会社
本店 東京都千代田区丸の内1-2-1 ☎03-3212-6211（代表）

新しい学力観に立つ指導を

文部省初等中等教育局小学校課教科調査官　成田　國英

これからの教育においては、子どもが自己実現を目指し、予想される社会の激しい変化に対応して現在及び将来を主体的に生きていくことができる資質や能力を、一人一人の子どもに育成することが求められている。そのためには、知識や技術を重視したこれまでの学力観を改め、一人一人の子どもの創造力、思考力、判断力、表現力などの能力や、学ぼうとする意欲や態度などを包括して学力ととらえる「新しい学力観」に立ち、一人一人の子どもが主体的な活動の仕方を身に付けるように指導することが大切である。

子どもの主体的な活動を推進するためには、今後、体験的な活動を一層重視する必要がある。例えば、社会科の学習においては調査や見学などの活動を積極的に取り入れたり、理科の学習においては観察や実験を一層重視するとともに、問題解決的な学習を行うことなどを重視することである。体験的な活動は、具体的な活動を通して学ぶことの楽しさや成就感を体得するなど、子どもに学習意欲をもたせ、主体的な学習の仕方を身に付ける上で極めて効果的であるからである。このような体験的な活動は、特定の教科に限らず、特別活動など学校教育全体を通じて重視する必要がある。

したがって、修学旅行など集団宿泊活動においては、子どもに、どのような資質や能力を育成することが求められているかを明らかにして計画し、実施することが大切である。

平成元年に改訂された学習指導要領においては、集団宿泊活動や奉仕活動などの充実が求められている。その背景には、社会の変化や子どもの実態などをかんがみて、子どもの集団生活への適応、自然との触れ合い、奉仕や勤労の精神の涵養などにかかわる体験的な活動を充実する必要があると考えられるからである。

学校行事の中でも、遠足・集団宿泊的行事や学芸的行事などは、子どもの発意・発想を取り入れやすい行事である。したがって、今後、集団宿泊活動の運営に当たっては、行事の一部を子どもたちの計画と運営に委ねることを一層考慮したり、子どもの願いや考えなどを指導計画に反映させるなど、子どもが主体的に活動する場と機会を積極的に設け、その活動を温かく見守り励ますことに努める必要がある。

なお、学校週五日制の実施にともない、子どもたちは、家庭や地域社会においてこれまでと比べてさまざまな学習や経験をすることが予想される。集団宿泊活動を通して身に付けたさまざまな資質や能力を、学校における指導にどのように生かすか、また、家庭や地域社会における活動や生活にどのように発展させるかなど、子どもの活動にかかわる望ましい支援の在り方についても、今後一層工夫することが求められている。

――修学旅行生の作文――
＜心に残る修学旅行＞
羽田新空港を利用して

駒場東邦高等学校　金川　暢宏

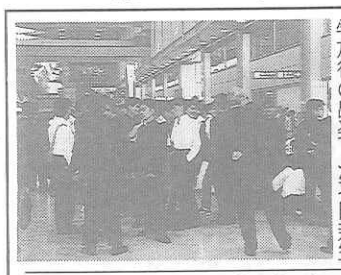
我が駒場東邦の修学旅行の交通手段が飛行機となったのは、つい最近のことである。それまでは、新幹線と寝台車で行ったそうだ。しかし、僕は今回、修学旅行委員長になった時から、今年は寝台車に換えようと思っていた。というのは、僕自身、旅とは時間に追われて行くものではない、という考えを持っていたからだった。だから、結局、寝台で行けなくなっても、飛行機でいくことに抵抗を感じていた。

しかし、しばらくして修学旅行の出発日が羽田新空港の開港日と重なるという事実を知った途端、僕の単純な心は一変してしまった。新空港が見られるというだけではなく、「出発が早いから、もしかして最初の団体客になるかも?」とか、「それなら、テレビや新聞に出されるのでは?」等、訳の分からない想像をし、そのことを考えては独りニヤニヤしていた。

そして、当日が来た。眠い目をこすりながら見た羽田新空港はかなり大きかった。旧羽田空港は、かなり前に来て以来、来ていなかったので、それとの比較は出来なかったが、それを踏まえて考えても、やはり大きなものだった。出発前に、旅行会社の人が、端から端まで歩いて十五分掛かるといっていたが、これも納得できる程だった＝写真。

その後の旅行が、とても変化のある（?）旅行だったので、大きかったということと、混んでいたということ以外、羽田新空港に関しては深い印象が残っていない。しかし、空港開港日に、空港を利用したということは、後々、修学旅行のことを思い出した際にはまず出てくるに違いない。それだけでなく、社会人になって空港を利用する時にも、修学旅行のことや、高校時代のことを思い出すだろう。空港から旅立つ時に、高校時代の自分を思い出すことで、何が起こるとも思えないが、それによって自分を改めて見つめ直すことができれば、（たとえテレビに映れなかったとしても）羽田新空港を利用した最初の修学旅行生になった意義もあるだろう。そういう意味で、僕にとっての羽田新空港は心に残るものとなった。

▽コース
9／27　羽田＝福岡＝柳川
9／28　吉野ヶ里＝阿蘇山＝熊本市内　阿蘇泊
9／29　島原＝雲仙泊
9／30　雲仙＝長崎市内泊　長崎＝ハウステンボス＝平戸市内泊
10／1　平戸＝太宰府＝博多＝ひかり＝東京



神戸港中突堤から乗船

――修学旅行を考える――
海国修学旅行に寄せて

関西汽船株式会社　取締役船客営業部長　森　喬太郎

我が国は天然資源に恵まれず、年間七億トンもの、鉱石や石油、石炭、穀物、食料品を輸入し、それを七千万トンの高付価値商品に替えて輸出できるお陰で、この狭隘な国土の一億二千万人余の国民が平和に豊かに過ごせます。一方我が国の黎明期には遣隋使、遣唐使によって中国大陸から、近代国家建設に燃えた明治政府以降は西洋諸国から、文明を貪欲に摂取しました。

我が国形成の物心両面の糧は、このように「すべてはるばる海を渡って」根付き、繁茂したと申せましょう。更に今、政府は近い将来を見通し、限りある石油資源（バレル当たり）の最も効率的で無公害な輸送手段として、順次鉄道やトラック（モーダル）から船舶輸送への模様替（シフト）えを急いでおります。このように、四面を海に囲まれた私たちは、出来るだけ海・船旅と出会っていただきたいとの気持で一杯です。

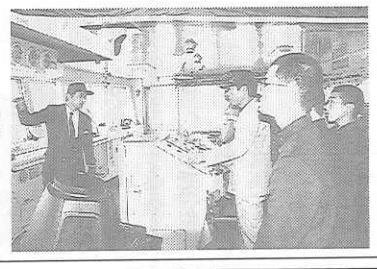
この熱い気持が、昭和三十四年、修学旅行史上画期的登場をみた専用電車を前に、当時の我が社は「海洋国家の旅客船会社が修学旅行に果たす教育的使命」をテーマに、山本理事長以下全修協委員諸先生方に幾度もの討議研究を重ねていただき、『海事思想・洋上体験の修学旅行』の結論を得ました。理事長には資金調達面にまで奔走され、わずか二年余の短期間に、修学旅行専用船「わかば丸」の誕生を、翌々年には第二船「ふたば丸」が就航し、「修学旅行の海洋時代到来」と呼ばれ、一時代を作っていただきました。

両船は十三年間に、多感な若人百五十万人に海を身近に体験してもらい、無上の誇りと充実感を味わいました。

全修協三十五周年記念刊行誌「修学旅行総覧」や、「修学旅行新聞」紙に寄稿される諸先生方の課題は、常に一貫して『不断の改善向上』と受け止め、読ませていただいております。

内外が様変わりし、就航船も一万トンの時代に入り、我が社には、今、専用船が作られた往時の情熱を傾けて『新しい海事思想・洋上体験の修学旅行の検討提案』気運が興りつつあります。

その素案作りの中には、授業時間に振替可能なレベルを目指して、天文学教室、ロープワーク、輸出入貿易講座、気象海象講座、内燃機関学、海のシルクロード、衛星（サテライト）時代の航海術、料理教室、テーブルマナー、等々。航空機の十八倍、新幹線に比べて七倍、乗船時間を要する代わりに、広々とした船内、六十人の乗組員（クル）、潮風がほおを快よく刺してくれるデッキ…など船旅ならではの学習を提案し、監修を受けてみたいと、取り組んでおります。



操舵（だ）室の見学も可能

KANSAI KISEN
大阪・神戸 直行便 別府 さんふらわあ 12,000トン
大阪南港 18.40発 9.00着 ⇄ 神戸中突堤 20.10発 6.45着 ⇄ 別府 7.40着 19.10発
信頼の船旅
関西汽船
船客営業部販売課 大阪市北区梅田1-1 ☎(06) 344-7031
東京支店 東京都中央区八重洲1-9-9 ☎(03)3274-4273

「動物たちのあったかラ・ン・ド」
●営業受付時間
9:00～17:00（3月16日～11月15日）
9:30～16:00（11月16日～3月15日）
●修学旅行料金（消費税含む）
高校生1,100円　中学生　800円
小学生　700円　ガイドラジオ
バス1台につき1,030円
別府あじむ草原　博物館相当施設
アフリカンサファリ
〒872-07 大分県宇佐郡安心院町大字南畑
☎ (0978) 48-2331(代)
FAX (0978) 48-2330

東京コマ旅行会館は
第8回優秀防火建築表彰で
建設大臣賞を受賞いたしました。
東京でのお泊りは
安全設備を誇る当会館へ。
東京タワー、国会議事堂を間近かに望む東京の中心にあり、8階建の近代ビルで、修学旅行の皆様に、より有意義な旅行をしていただくために、清潔で低廉に、しかも最新の設備をほどこした全館和室の観光旅館です。
ホテル〈全館和室〉
東京都港区六本木1丁目7番地
TEL(03)3585―1046(代表)
東京 コマ旅行会館

©SPACE WORLD, INC.
地球に生まれた宇宙。SPACE WORLD
宇・宙・体・験
〈スペースワールドは21世紀の校外学習環境〉
(株)スペースワールド
インフォメーションセンター TEL093-672-3600　予約センター 0120-340020
本社 〒805 北九州市八幡東区枝光本町8-1